

西之内町地車新調 実行委員会通信

2022 年
3 月号

新調通信に関する御問い合わせ
西之内町公民館
072・444・7712

西之内町新調地車

彫刻の物語背景と紹介（11）

歌舞伎の難波戦記

春光の候、西之内町の皆様におかれましては、ますますますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

今回も新調だんじりの彫り物の場面に
ついて少しご紹介します。彫り物の題材で
ある「難波戦記」については、これまで書
物、伝記、講談などの様々な形で継承され
てきました。そもそも「難波戦記」は江戸
時代に作られた物語で、「大坂冬の陣」「大
坂夏の陣」を元になっているのですが、かな
り脚色と創作が入っています。また講談の
世界では、地域性がさらに後押しして、豊
臣最良の物語となっているところがあり
ます。しかし、物語として非常に完成度
が高く、関西、特に大阪庶民の人気を集めた
ものでありました。

さらにこの「難波戦記」は、浄瑠璃や歌
舞伎の演目としても上演されています。1
894年（明治27年）11月から189
5年（明治28年）9月にかけて『早稲田文



「難波戦記」（写本）

学』に連載された坪内逍遙（つぼうちし
ようよう）作の歌舞伎の演目で、『桐一葉』
（きりひと）という作品があります。

逍遙は、日本の小説家、評論家、翻訳家、
劇作家。小説家としては主に明治時代に活
躍した人物で、代表作に『小説神髓』『当
世書生気質』及びシェイクスピア全集の翻
訳があり、近代日本文学の成立や演劇改良
運動に大きな影響を与えました。その逍遙
が、新しい歌舞伎劇を目指すべく、明治2

6年（1893年）に論文『我
が邦の史劇』を発表、その実践
例として『桐一葉』を創作した
のであります。演目では、6幕
16場の構成となっており、主
人公は片桐且元となっていま
す。「難波戦記」の中で且元に
スポットライトをあてた内容
となっており、徳川家からの難
題を切抜けようと苦慮する且
元と、猜疑心が強くヒステリッ
クな淀君を中心に、崩壊してい
く豊臣家の運命を描いた境遇
悲劇となっております。

だんじりの彫り物の題材で
有名な場面としては、『長柄堤
訣別の場』があります。且元を
討とうとする大野親子の一味
に鉄砲で追われた後、ただ一騎
でやってきた且元は、夜明け前
の淀川の堤で遠く大坂城を眺
めて感慨にふけりながら、木村
重成を待ちます。やがて馬で駆
けつけた重成は自身の思いを
打ち明け、最後の最後まで豊臣
家のために尽くしたのもむな
しく、もはや徳川家との戦争は
避けられなくなったことを共

に嘆くのであります。且元は
重成に最後の事を託してそれぞ
れ別れてゆくという場面です。
これは宮本町だんじりの連子に
取り入れられております。

西之内町のだんじりでは、同
じ第6幕の『片桐邸奥書院の場』
を採用しております。



四代目宮本町地車 左平土呂幕 「長柄堤 木村長門守重成

片桐且元訣別の場」 彫師 上間庄平師



淀君からその方の忠節を疑わな
いという手紙が届き、且元は意を決
して登城しようとはしますが、友人の
織田常真から、淀君の手紙は大野親
子の陰謀であることと、娘蜻蛉の自
害を聞くこととなります。戦闘が始
まり、皆がいぶかるころへ石川伊
豆守が駆け付け、大野親子を誅せん
と戦闘をしかけ共に闘うことを勧
めます。且元はその短慮を責め、豊
臣家の内紛が徳川家に付け込まれ
る一因となり、伊豆守の勝手な行為
で自らの計画が潰れてしまったと
嘆きます。伊豆守は申し訳なさに自
害。大野親子が攻めてくるのも時間
の問題となりました。且元は屋敷を
立ち退くことを決意します。庭の桐
の葉が静かに散りゆくのを見なが
ら「我が名にちなむ庭前の、梧桐尽
く揺落なし、蕭条たる天下の秋、あ
あ有情も洩れぬ栄枯盛衰、是非もな
き定めじやなあ」と嘆息します。豊
臣家に尽くした忠義が届かないと
ころを桐の葉（豊臣家の家紋）が落
ちるということになぞらえて、天下
の座から落ちることを感嘆する場
面です。山本師は登場人物の顔の表
情や動作で巧みに表現しておりま

す。写真は落ちてきた桐の葉を手
にするあの人物です。どの部分に配置
しているかも含め、令和5年の完成
をお楽しみにお待ちください。



古い写真ですが、名役者で演じてい
る桐一葉の『片桐邸奥書院の場』



新調地車の彫り物

進捗報告

「松良・脇障子の見た目」

3月に入り引き続き大屋根、小
屋根の枘合いの下絵から荒彫りを
進めております。先月にご報告し
た通り、前例のない場面を表現し
ているために、物語の内容を何度
も読み返しては下絵に写し彫り始
めております。

また、松良部分と擦り出し受け
の素削りから仕上げにも着手して
おります。松良部分は、縦に長く
だんじり正面から見た場合に左右
にどっしりとした感じでついでい
る物や、大きく彫り抜きをしたも
のがあり、非常に好みの別れる部
位であります。新調だんじりでは、
後者のイメージを持って人物や動
植物の配置に限界まで気を配りな
がら進めております。少し遠目か
ら臨んだ場合にも、深く彫りぬい
ていることがわかるよう意識して
おります。

脇障子部分の仕上げは終わって
おり、カスミ部分の細かい背景を
仕上げ、彩色を待つこととなって
おります。この部分は、完成した

ものは正面からではなく外側の一方向か
らとなる部位であるため、人物や動植物を
経験則に基づいて配置しております。製作
段階では気が付かないところへの配慮を
随所に施す山本師の技術と彫り物に対す
る熱意を感じるところです。

彫り物の主要部分の製作期間は残り約
1年です。山本師のこのだんじりに対する
情熱がまだまだ上がることを確信する仕
事ぶりです。完成をご期待ください。

新調委員の独り言

ロシアのウクライナ侵攻という暴挙や
東北での大きな地震、新型コロナウイルス
の感染者数の高止まりという先の見えな
い中で、世の中はどこに向かっているの
でしょう。ここ数年、社会は誰かの批判や
失態といったことを常に攻撃しているよ
うに感じます。

しかし、過去人類は大きな世界大戦を2
度も経験し、今に至っていることを考えれ
ば、必ず混沌としたこの世の中の流れは収
束し、新しい時代を迎えると期待します。

その新しい時代のなかで、この新しいだ
んじりが地域の活性剤の主要な部分にな
ればと期待しています。今後ともご支援とご
協力をお願い申し上げます。